



心の豊かさを求めて

生活様式の変化やメディアの発達、スマートフォンやタブレットなどの普及により「読書離れ」「活字離れ」が指摘されて久しくなっています。

昨年、文化庁が行った「令和5年度 国語に関する世論調査」では、62.6%の人がひと月に一冊も読書をしないという結果でした。（電子書籍を含む。雑誌や漫画は除く。）

前回、平成30年度の調査では、47.3%だったので、一段と読書離れが進んだことになります。しかし、「読書の必要性を感じない」という意見は8.5%という結果から、一定数以上の人々が、読書の大切さを認めているということが言えるのではないのでしょうか。

読書にはリラックス効果があり、就寝前に本を読むと良質な睡眠が期待できると言われています。考える力や豊かな情操を育む基盤としてもとても重要です。お子さんが小さい頃、絵本の読み聞かせをされた家庭もあったのではないのでしょうか。人が本を読むのは、自分に足りない知識を取り入れ、新しい自分を築き上げ、高めていくためとも言えます。想像力をかきたて、わくわくするときもあり、心の豊かさにもつながります。



先ほどの「国語に関する世論調査」の中の「読書量が減っている理由」には「学校での読書指導が十分でない…0.2%」という意見がありました。

土田小学校では、保護者や地域の方が中心となり、「きらきら待夢」という読み聞かせボランティアが活動してくださっています。子どもたちは、新しい本との出会いを、毎回楽しみにしています。

また、図書委員会では、6月16日～27日まで『読書週間』を位置付けています。委員会の子どもたちを中心に、いつも以上に学校図書の利用を促し、本から得た知識などにより新しい自分と出会い、心の成長につながることを期待しています。

この機会に、家庭でも、興味のある本や知り合いの方が推薦する本を読んでみるなど、本と向き合ってみませんか。お子さんと本の内容について話してみるのも良いでしょう。学校の図書館で借りられる本は、子ども向きのものがほとんどですが、案外読み応えがあります。大人も心を動かされるかもしれません。



可児市の教育

ひとりひとりの今の笑顔を未来につなげる 未来の笑顔につながる「笑顔の”もと”」を育てる

土田小学校のホームページでは、学校の様子、子どもたちのステキな活動、地域の方との交流などを紹介しています。ぜひ、ご覧ください。
<https://www2.school.city.kani.gifu.jp/dota/>